9月12日(金) 事例研究 第1室 (309)

分野/Field: Writing

EFL/ESL ライティングセンターの考察:その多様性を探る

Writing Centers in the EFL/ESL context: Investigating Diversity

吉田 弘子 (大阪経済大学)

はじめに

この発表は、文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)(平成19年~21年)「大学ライティングセンターの構築と運営に関する研究—EFLの視点から」¹の研究初年度の調査結果を発表することを目的とする。

研究の目的

近年、コンテンツを中心に英語で授業を展開する (content-based instruction) 大学が増えている。これらの授業では、読解、聴解、発表などの言語活動とともに、英語でのレポートやリサーチペーパーが必須となっていることが多い。しかし、日本語を母語とする英語学習者にとり、大学レベルでの英語ライティングが容易でないと報告する研究は数多い (Bamford, 1993; Gorsuch, 1998, 2001)。その要因として、大学で求められるライティング力と中学、高校で学ぶライティングに大きな乖離があることが挙げられている。ほとんどの日本の中学・高校では、英文ライティングとは与えられた日本語を英文に訳すことを意味し、自ら主体的にメッセージを伝えるライティングはとりあげられていない (Hirose, 2001)。また、中学・高校で求められるのは、数センテンス単位のライティングであり、パラグラフすら英文を書くことなしに大学に入学している学生も多い (Cornwell & McKay, 2000)。

これらの学生が大学レベルで求められるレポートやリサーチペーパーを英語で作成する際には、授業での一対多の指導では限界があり、課外の個別指導が不可欠である。米国の大学では1940年代から学内にライティングセンターが設立され、学生の英文ライティング向上に大いに貢献してきた (Bower, Kiser, McMurtry, Millsaps & Vande Brake, 2002)。しかし、米国の大学ライティングセンターは、英語を第二言語として学ぶ学生 (English as a second language: ESL) を対象としており、教科として英語を学び、教室外では英語と接触する機会がほとんどない EFL (English as a foreign language) 環境下での日本で、そのシステムをそのまま導入することは適切ではない。

本研究では、①EFL/ESL 環境下にある国内外の大学のライティングセンターの役割と機能の系統だった調査と分類を行うこと、②日本の大学に適したライティングセンターの構築と運営の分析を行うために、事例研究として、ライティングセンターを質的及び量的な研究手段を用いて多面的に検証し、学生及び教員からみた望ましいライティングセンターのあり方の分析を行うこと、③上記の①と②に基づき、アカデミックな英語の習得を大学で推進する際に、今後ますます需要が増大すると予想される日本の大学でのライティングセンターの役割と構築について分析を行うことをめざす。

本研究発表の目的

本研究発表では、全体計画のうち、EFL/ESL 環境下にある国内外の大学のライティングセンターの役割と機能の調査結果について報告する。

方法・結果

EFL/ESL 環境下にある国内外の大学のライティングセンターに対して、インタビューや観察、アンケートなどを用いて、多角的な角度からデータを収集した。

調査対象としたライティングセンターは、以下の通りである。(五十音順)

- 大阪女学院大学
- 上智大学
- 東京大学(駒場キャンパス)
- 早稲田大学

結果は、各ライティングセンターの特徴と類似・相違点を中心に報告する。また、海外の大学ライティングセンター(韓国、シンガポール、アメリカ等)についてもあわせて発表する予定である。

引用文献

- Bamford, J. (1993). Beyond grammar translation: Teaching students to really read. In P. Wadden (Ed.), *A handbook for teaching English at Japanese colleges and universities* (pp. 63-72). New York: Oxford University Press.
- Bower, V., Kiser, C., McMurtry, K., Millsaps, E. & Vande Brake, K. (2002). "The Writing Center Past and Present." Retrieved February 8, 2008, from <http://www.montreat.edu/tutor/1-1.htm>.
- Cornwell, S., & McKay, T. (2000) Validating a Measure of Writing Anxiety for Japanese Students of English. *JALT Journal* 22, 114-139.
- Gorsuch, G. (1998). *Yakudoku* EFL instruction in two Japanese high school classrooms. *JALT Journal*, 20, 6-32.
- Gorsuch, G. (2001). Japanese EFL teachers' perceptions of communicative, audiolingual and yakudoku activities: The plan versus the reality. Retrieved March 10, 2001, from *Educational Policy Analysis Archives*, <http://epaa.asu.edu/epaa/v9n10.html>
- Hirose, K. (2001). Realizing a giant first step toward improved English writing: A case in a Japanese university. In I. Leki (Ed.), *Academic writing programs* (pp. 35-46). Alexandria, VA: TESOL.

ⁱ 課題番号 19520531

研究代表者: S・R Johnston (大阪女学院大学)

研究分担者: S・S Cornwell (大阪女学院大学)、吉田弘子 (大阪経済大学)